

光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP)
ステージゲート評価結果 (5年目)

1. 研究開発課題名
量子ソフトウェア
2. 研究代表者名 (所属機関名・職名は評価時点)
慶應義塾大学理工学部 教授
山本 直樹

ステージゲート評価結果 (5年目)

○結果

5年目ステージゲート通過とする

○評点

A:評価項目を満たしており、課題の継続実施が妥当である

○総合評価コメント

実機を用いた産学共同において、質と量の両面において想定を上回る成果が出ており、ステージゲート目標を達成している。また、多くの企業と連携を進めている点も高く評価できる。そのため継続と判断する。

今後は、古典コンピュータ上のベストアルゴリズムに対するベンチマーキング結果を示すだけでなく、NISQ実機の実ビジネスにおける可能性を、より多くの科学者・工学者の参加を促す形で示せるとよい。

また、実機を用いた産学共同の成果が多数かつ多岐にわたることから、様々な成果が単純に羅列されている印象を受ける。今後はこれらの成果を「予想される産業応用時期」といったわかりやすい基準で整理し直し、早期での実現が期待される成果を比較的詳しく説明するなどの工夫があると、QLEAPの目標の一つであるTRL6のデモンストレーションに向けた進捗などが実感しやすい。

以上